

## 情報公開用文書

(多施設共同研究用)

西暦 2025年11月6日

研究課題名	頸椎前方椎体間固定術（ACDF）における椎体間ケージの性状が骨癒合に与える影響
研究の対象	2015年1月1日から2027年6月30日までに、横浜市立大学附属病院および横浜南共済病院で頸椎変性疾患に対して頸椎前方除圧椎体間固定術（ACDF）を受けられた方
研究目的 ・方法	頸椎疾患における神経圧迫の主因子は前方に存在することが多く、頸椎前方椎体間除圧固定術（ACDF）はその根本的な治療として有効な手術法です。ただし、手術によって再建された前方のケージが一定量沈み込んだり、骨癒合が早期に得られなかったりすることがあります。それらが起きないよう、良好な骨癒合が得られるように、ケージの素材や形状は開発し続けられています。本研究の目的は、使用されたケージの種類や形状によって骨癒合がどのように変わるのか、また骨癒合不全の原因となる要因はなにかをあきらかにすることです。
研究期間	承認日（研究機関の長の許可日）～西暦 2027年6月30日
研究に用いる試料・情報の種類	病歴、治療歴、検査データ（術前後のレントゲン、CT等）等を診療録から収集し、研究に使用します。
外部への試料・情報の提供	横浜市立大学附属病院へ情報提供を行います。
外部からの試料・情報の取得と保管	外部からの資料・情報は、匿名化したうえで、記録媒体で提供をうけます。横浜市大整形外科教室で、匿名化されたデータは、インターネットから独立したパソコンにパスワードをかけて保管します。研究代表者、研究責任者は、本研究に関連する記録を本研究の終了について報告された日から5年を経過した日、又は本研究の結果の最終の公表について報告された日から3年を経過した日のいずれか遅い日まで適切に保管します。この期間が終了後以降、データについてはハードディスクの消去、記録メディアの破壊を行い、紙データについてはシュレッダーを用いて廃棄します。
研究組織	主たる研究機関：横浜市立大学附属病院 整形外科 伊藤 陽平 共同研究機関： 横浜南共済病院 整形外科 三原 久範

<b>試料・情報の管理について 責任を有する者</b>	<p><b>【研究代表機関に集積された検体・情報の管理】</b></p> <p>研究代表者：横浜市立大学附属病院 整形外科 伊藤 陽平</p> <p><b>【共有された情報の管理】</b></p> <p>共同研究機関の研究責任者</p> <p>横浜南共済病院 整形外科 三原久範</p>
	<p>本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますので下記連絡先まで電話または FAX でお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはございません。</p>
	<p>問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：</p> <p>〒236-0037 横浜市金沢区六浦東1-21-1</p> <p>横浜南共済病院 整形外科 三原久範</p> <p>電話番号：045-782-2101（代表）</p>